

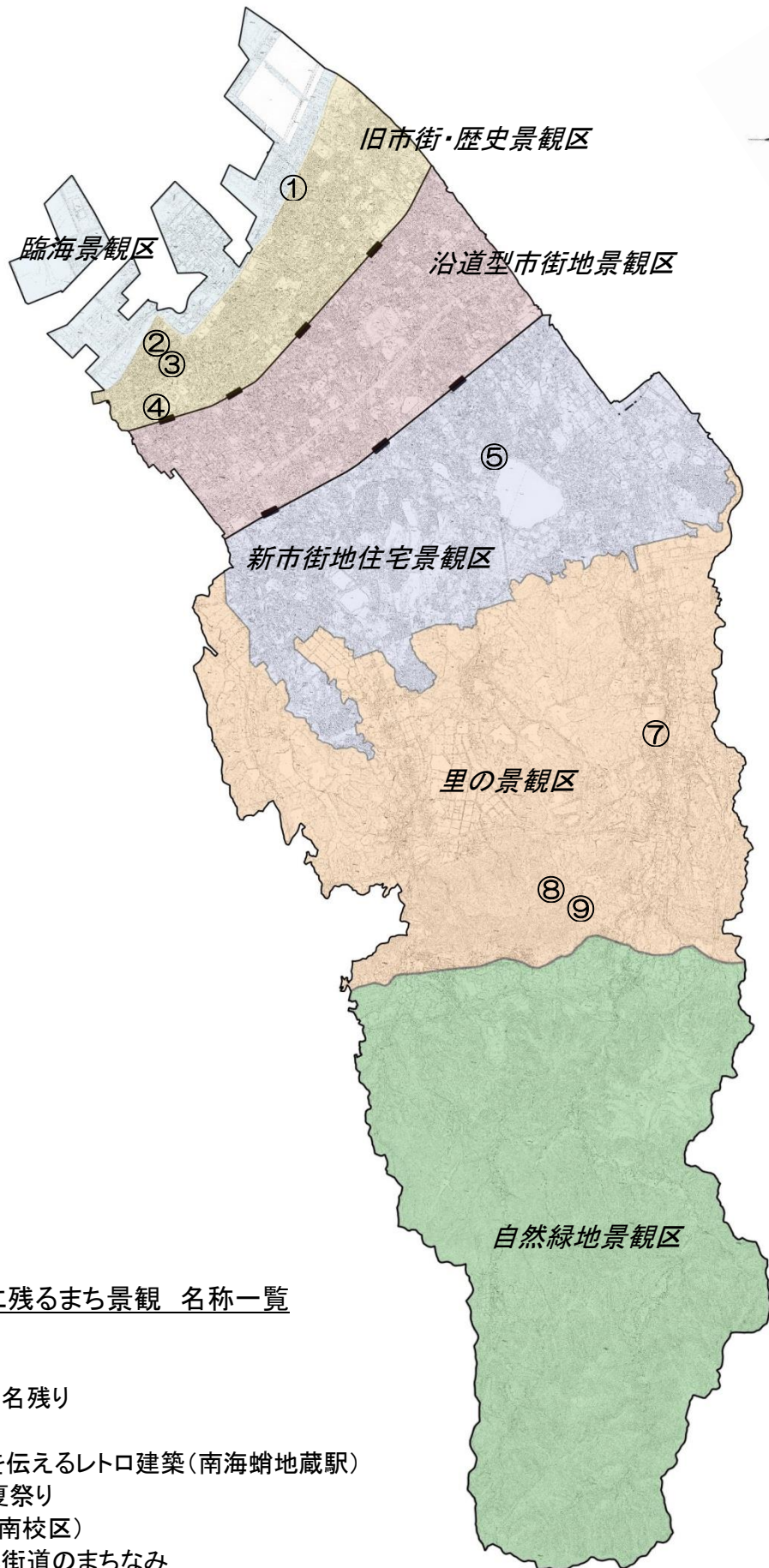
平成 30 年度

こころに残る景観資源（まち景観） 9 件の指定について

平成 31 年 2 月 18 日

岸和田市景観審議会

こころに残る景観資源(まち①)の箇所一覧



こころに残るまち景観 名称一覧

1. 春木西福寺
2. 中町 城跡の名残り
3. 輝く岸和田城
4. 蛸地藏伝説を伝えるレトロ建築(南海蛸地藏駅)
5. 久米田池の夏祭り
6. 日没前(山直南校区)
7. 積川町 元本街道のまちなみ
8. 神於寺の参道
9. 白原峠の星祭り(東葛城にて)

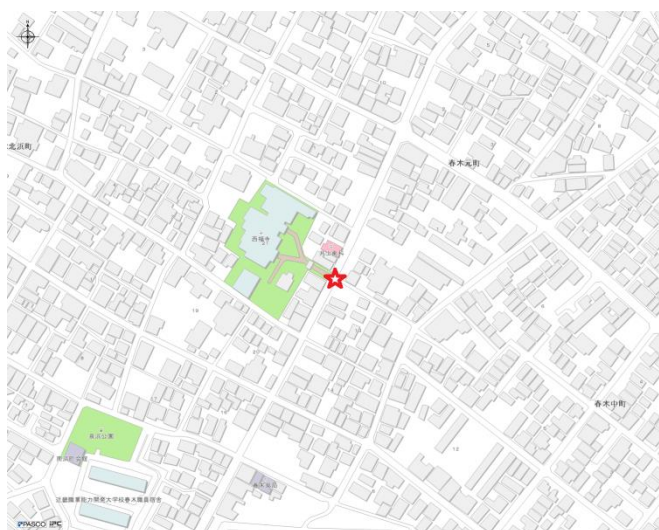
1. こころに残るまち景観の詳細と講評

① 春木西福寺

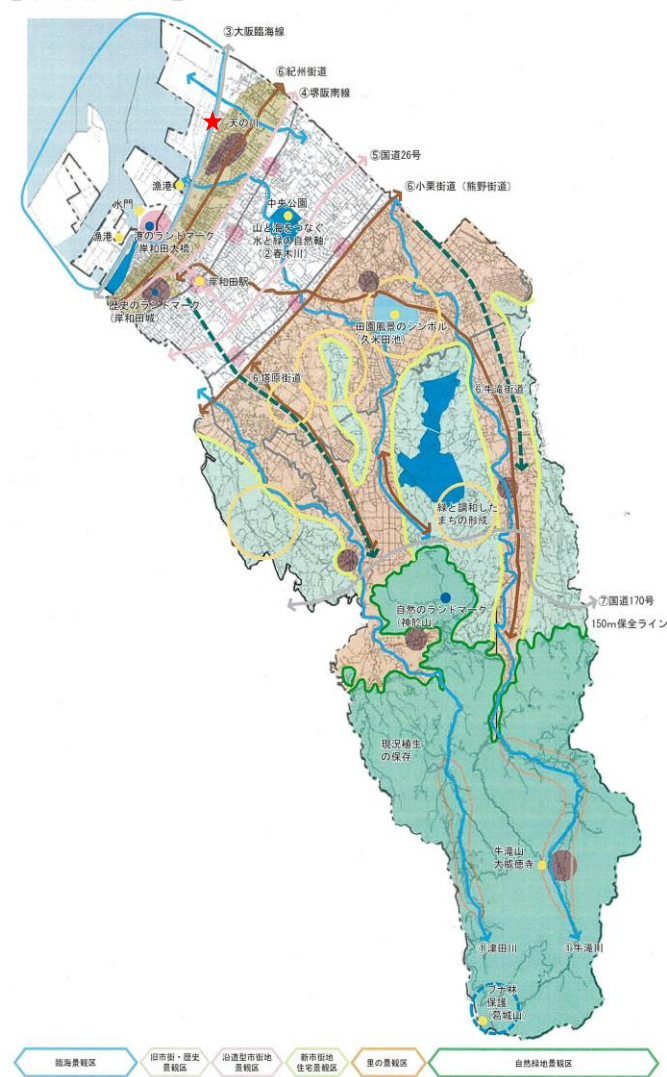
【写真】



【位置図】 春木校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	春木川
景観配慮地区	春木川周辺

■エピソード No.31 「春木西福寺」

室町時代に創建されたと伝わる西福寺。紀州街道から石畳と松が佇む参道を進み山門を抜ければ大きな楠と本堂が目の前に現れ、たちまち本寺の歴史を感じる事ができる。春木地区のまち景観を象徴するものである。(48歳男性)

■講評

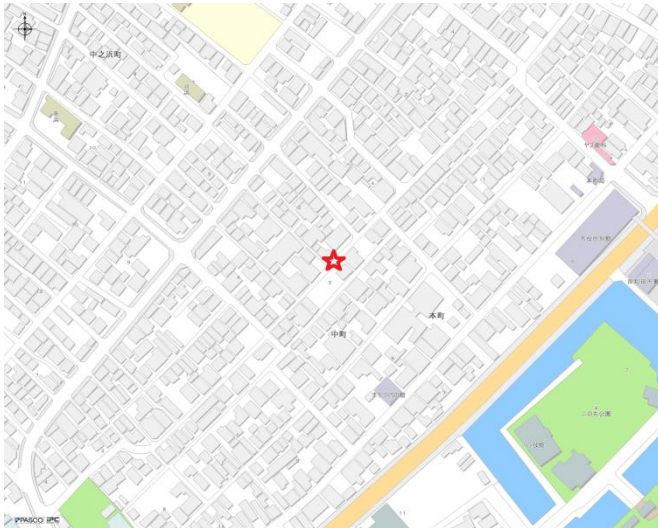
西福寺は、紀州街道から境内へと続く参道の松並木が美しい特徴的なまち景観である。時代の経過とともに周辺の街並みが変わっても、往時を偲ばせる参道は地域の人々を温かく迎えてくれる。今後も、春木の人々の思いを紡ぎ、いつまでも地域のシンボルとして親しまれる景観であり続けることを願いたい。

② 中町 城跡の名残り

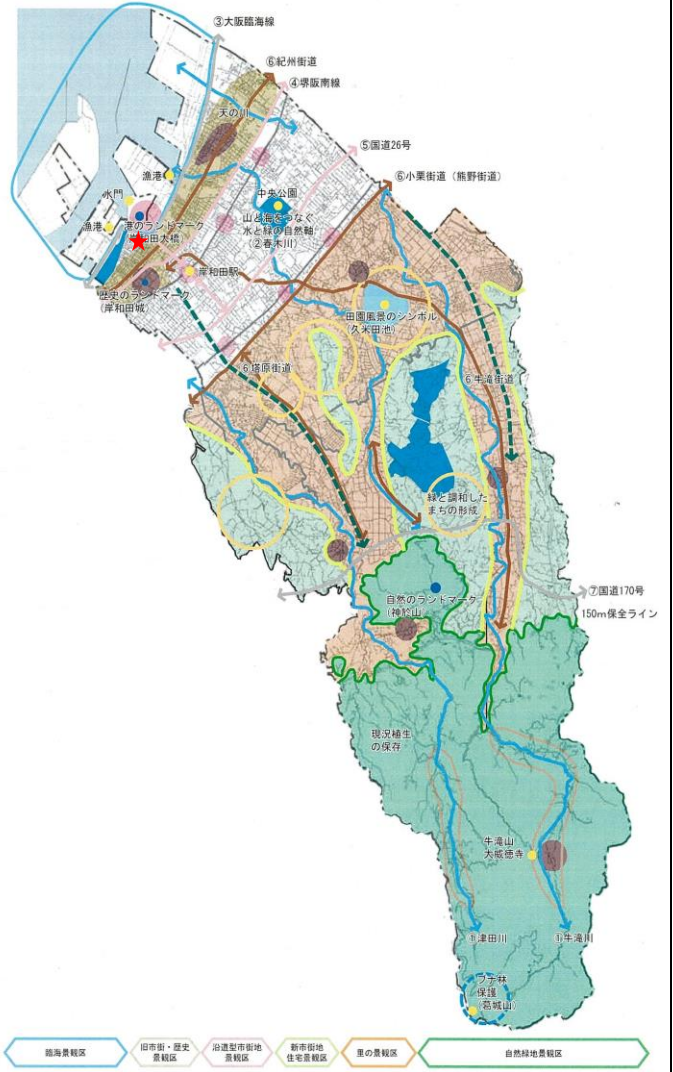
【写真】



【位置図】 浜校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	—
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No.33 「城跡の名残り」

浜地区の中町に残る石垣。その昔ここから浜側は海岸線だったそうだ。今では家が立ち並び違和感さえ感じるが、当時の町並みを今に伝えるまち景観だと感じました。(48歳男性)

■講評

公園で遊ぶ子供たちの傍らには、岸和田城の防潮堤として築かれたとされる石垣の一部が残されており、今に城郭の往時の姿を伝えているまち景観である。まちの姿は日々変わっていくが、古の人々の営みを示す生き証人としてこれからも守り続けてもらいたい。

③ 輝く岸和田城

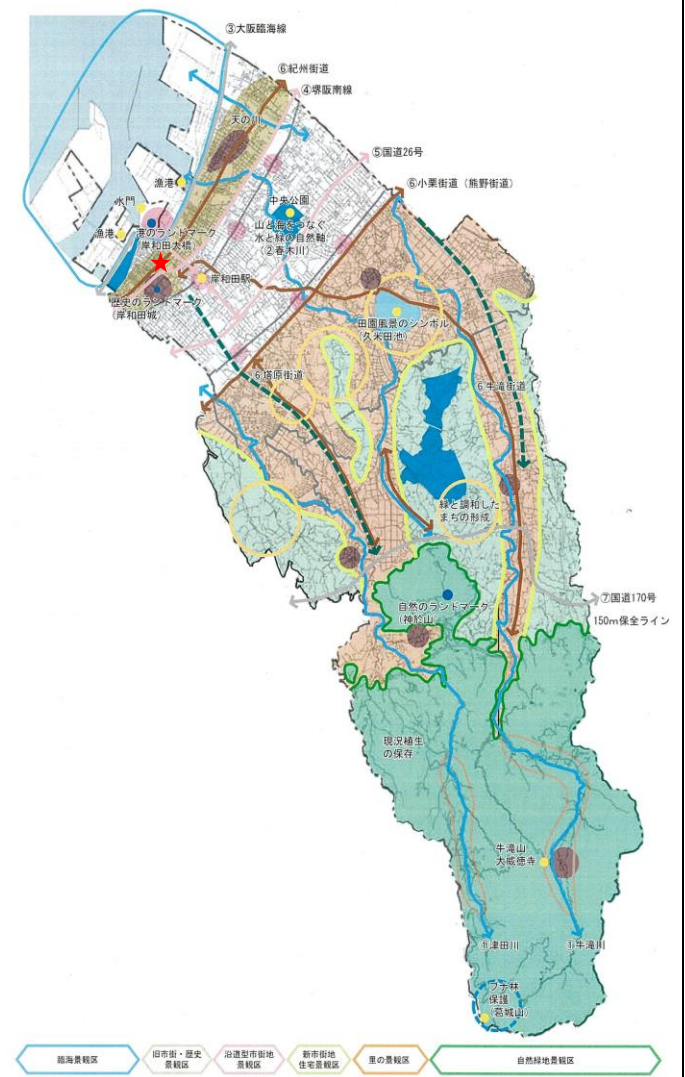
【写真】



【位置図】 城内校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	堺阪南線
景観配慮地区	岸和田城周辺

■エピソード No.7 「輝く岸和田城」

2018. 6. 13 がんこで食事して出てくると岸和田城の空がきれいだった。午後8時ごろです。(77歳男性)

■講評

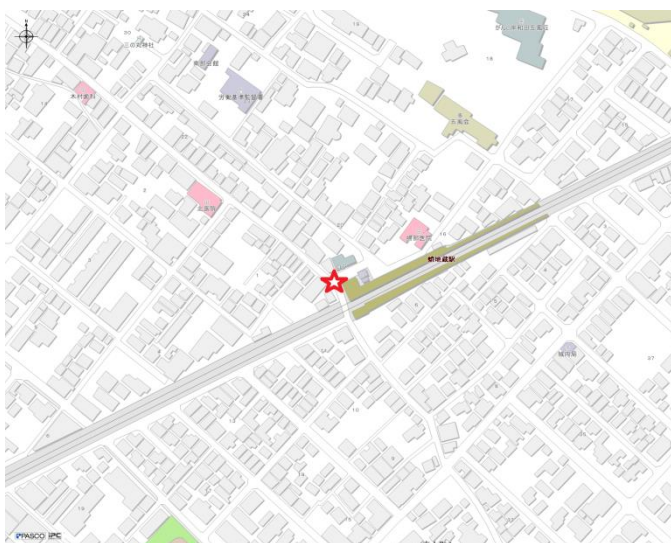
岸和田城は、四季折々の趣があり、これまでもここに残る景観資源として指定されているなど市民にもっとも親しまれている景観資源である。ライトアップされた天守のシルエットが暗闇に浮かび上がるまち景観は、昼間とは違った印象を受ける。今後も岸和田のシンボルとして多くの市民に愛されつづけ、これまでと違った岸和田城の景観が発掘されることを期待したい。

④ 蛸地蔵伝説を伝えるレトロ建築(南海蛸地蔵駅)

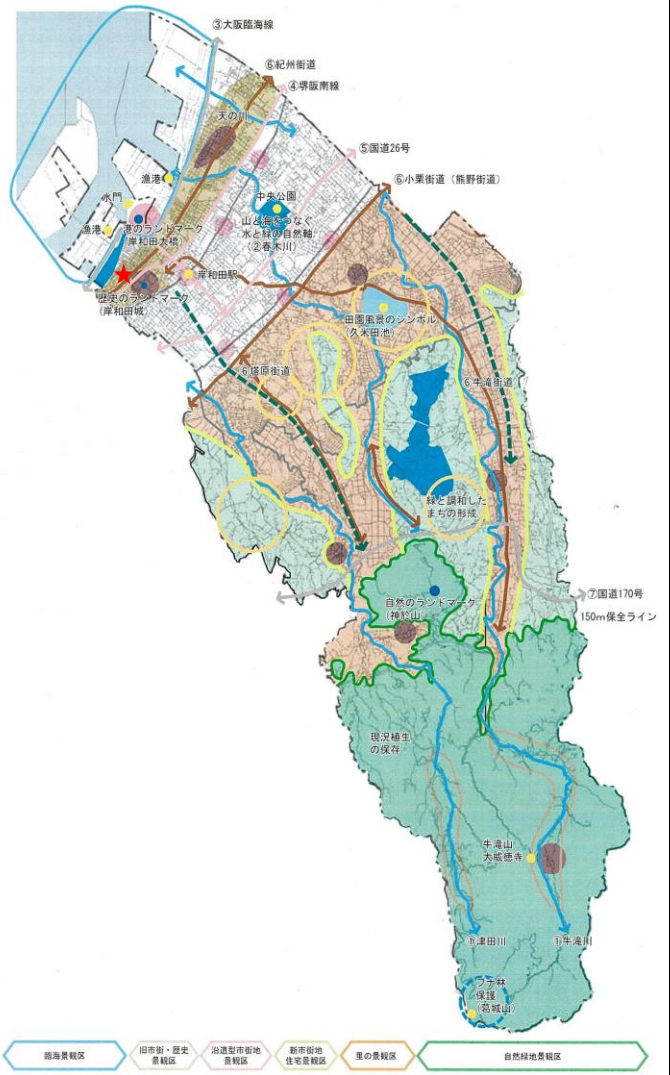
【写真】



【位置図】 城内校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	旧市街・歴史景観区
景観軸	—
景観配慮地区	岸和田城周辺

■ エピソード No.36 「蛸伝説を伝えるレトロ建築」

蛸地蔵伝説が描かれたスタンドグラスが設置された駅舎は大正時代に建てられた貴重なレトロ建築であり、地域を象徴するまち景観だと感じました。(48歳男性)

■ 講評

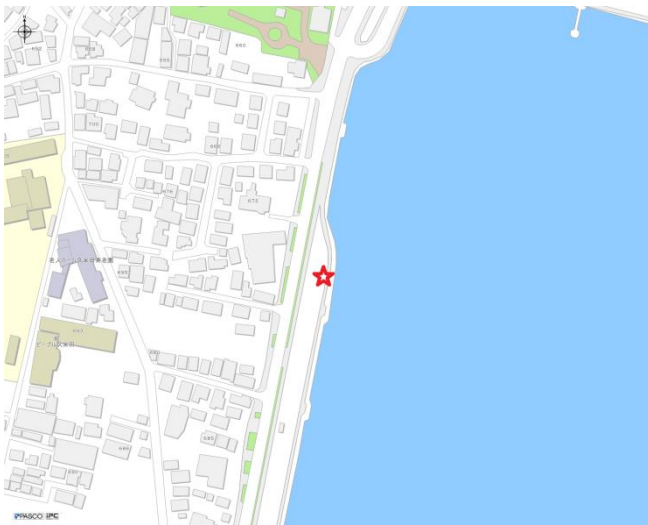
蛸地蔵伝説を今に伝えるスタンドグラスが装飾された南海蛸地蔵駅は、歴史的建造物が数多く残る地域のまち景観を象徴する建物である。商店街の街並みをリードし、大正時代から現存する建築物として貴重な存在となっている。岸和田城から続く閑静な住宅街や蛸地蔵商店街のシンボルとしてこれからも大切に維持願いたい。

⑤ 久米田池の夏祭り

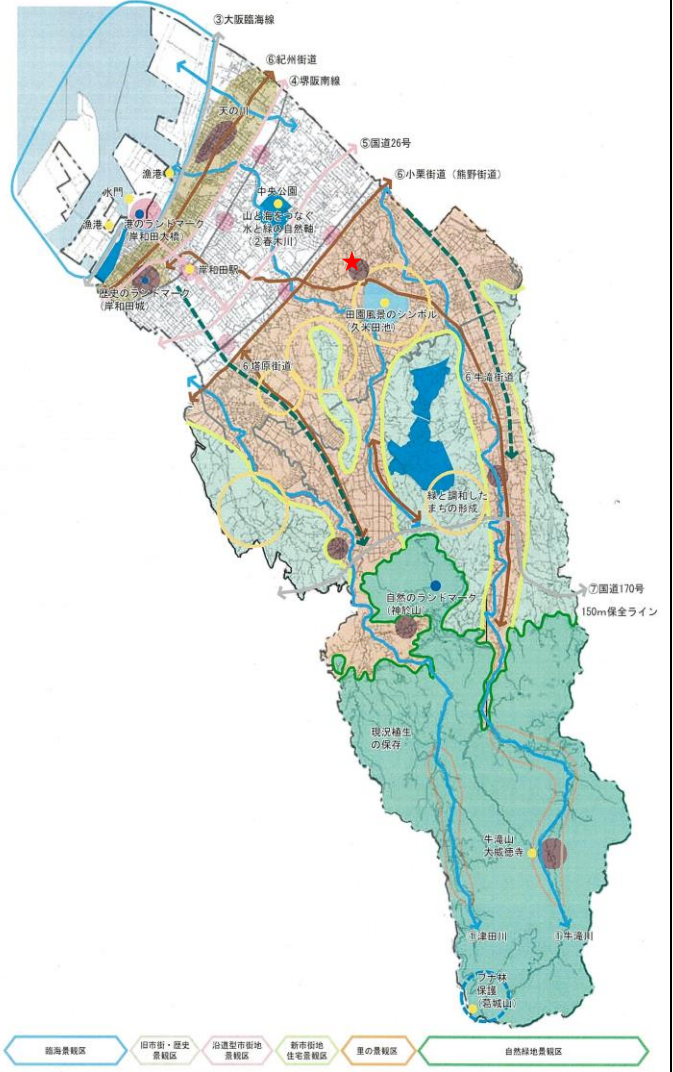
【写真】



【位置図】 八木南校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	新市街地住宅景観区
景観軸	旧街道
景観配慮地区	久米田池周辺

■エピソード No.23 「久米田池の夏祭り」
久米田池の風物詩となっている夏祭り。多くの人々が楽しみにしている打ち上げ花火が祭のフィナーレ。夕暮れ時に湖面を見ながら遊歩道を散策するのもお勧めです。(48 歳男性)

■講評
地域の人々により行われる久米田池の夏祭りは、笑顔あふれる夏の風物詩として賑わいと郷土愛を感じるまち景観である。日中から様々な催しが始まり、遊歩道に並べられた手作りの灯籠に火が灯されるころ、花火が水面を彩り、訪れた人々の拍手や歓声が鳴り響く光景は訪れた人々の心に深く刻まれることだろう。久米田池は、これからも様々な人々の関わりや営みにより守り継がれ、愛着のある地域のシンボルとして次世代に紡いでもらいたい景観資源である。

⑥ 日没前(山直南校区)

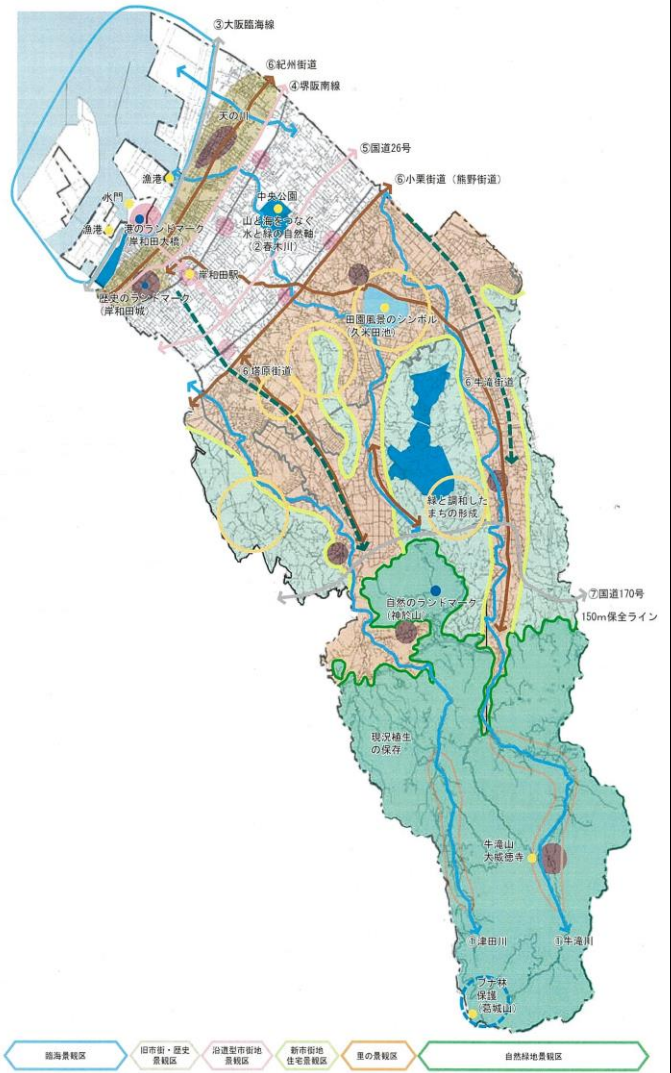
【写真】



【位置図】 山直南校区

非公開

【景観誘导图】 非公開



基本景観区域名	里の景観区
景観軸	—
景観配慮地区	—

■エピソード No.2 「日没前」

田植えの頃お天気の良い日は最高のロケーションです。ずっとこの景観は失われずに続いてほしいと願っております。(64歳女性)

■講評

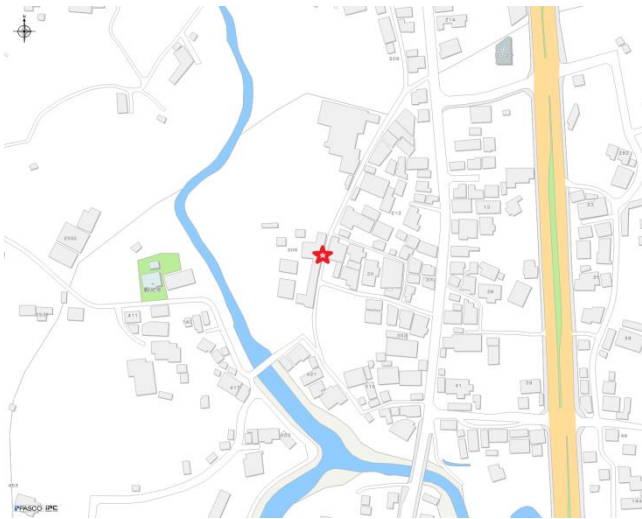
丘の上から見渡す山並みや、集落から人々の生業が感じられ、夕日と水田のコントラストが印象的なまち景観である。昼間に見える街並みが、日没とともに影となり、稜線のシルエットが美しいまち景観を眺望できる視点場であった。今後も地域の暮らしや営みが魅力的に伝わるまち景観として維持してもらいたい。

⑦ 積川町 元本街道のまちなみ

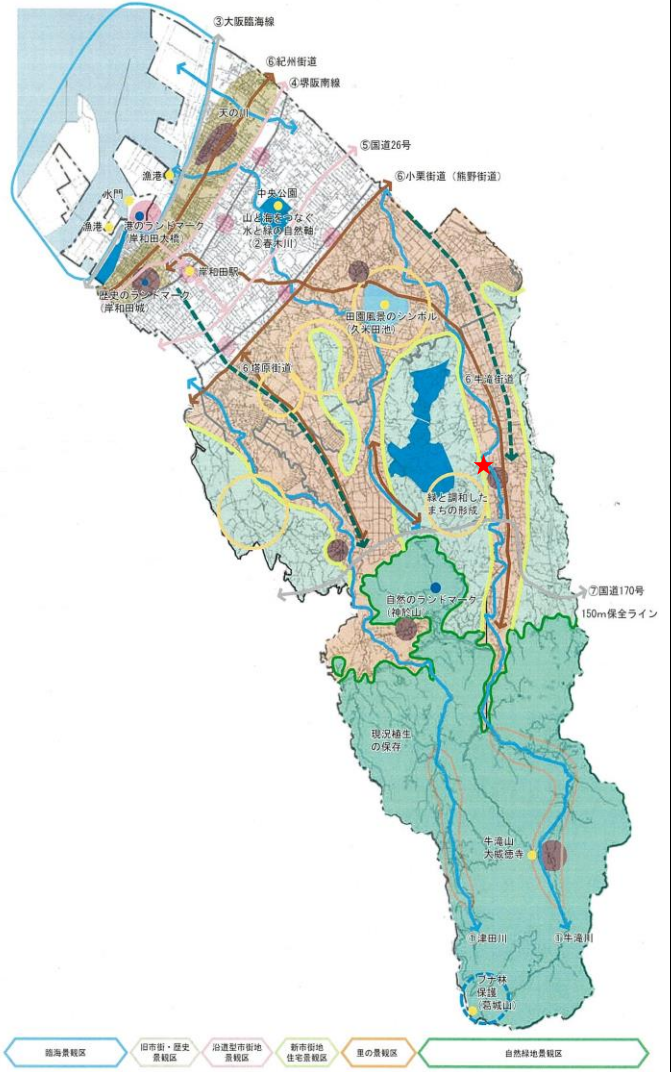
【写真】



【位置図】 山直南校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	里の景観区
景観軸	牛滝川・津田川
景観配慮地区	神於山周辺

■エピソード No.14 「積川町の元本街道」

積川神社から少し海側に行き、細い路地を左に入ると元信貴本家酒造の工場と本宅があった通りになる。狭い道だが昔はここが本街道だったそうです。今にも杜氏さんたちの声が聞こえてきそうな佇まいです。ここで使われていた酒造の際に米を蒸した『飯釜（こしきがま）』という大きな大きな鉄の鍋が岸和田城の城門に入ってすぐのところに展示されています。当時のままの長く続く塀とともに、酒造りの盛んだったころがしのべれます。(63歳女性)

■講評

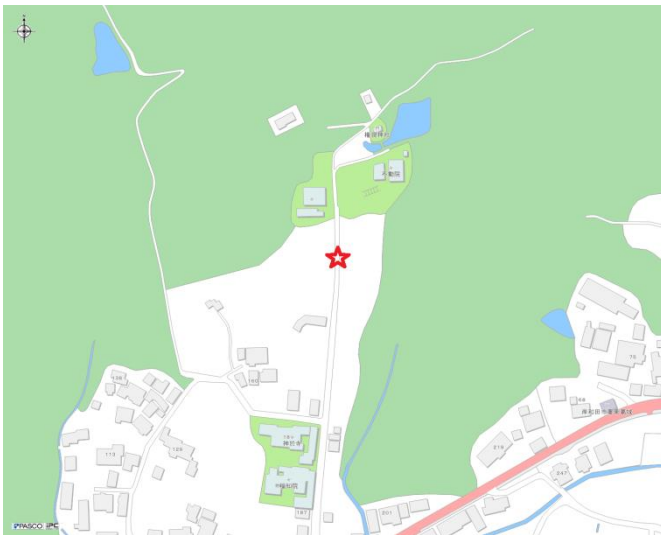
時を経て受け継がれてきた土塀と門長屋は、酒蔵として賑わっていた往時を偲ばせるまち景観である。これまでもここに残る景観資源として指定されており、それぞれの景観要素が織り成す風情は評価されるべきものである。積み重ねられた歴史の重厚さと静寂のなかで、せせらぎが醸し出すまち景観を、これからも守り続けてもらいたい。

⑧ 神於寺の参道

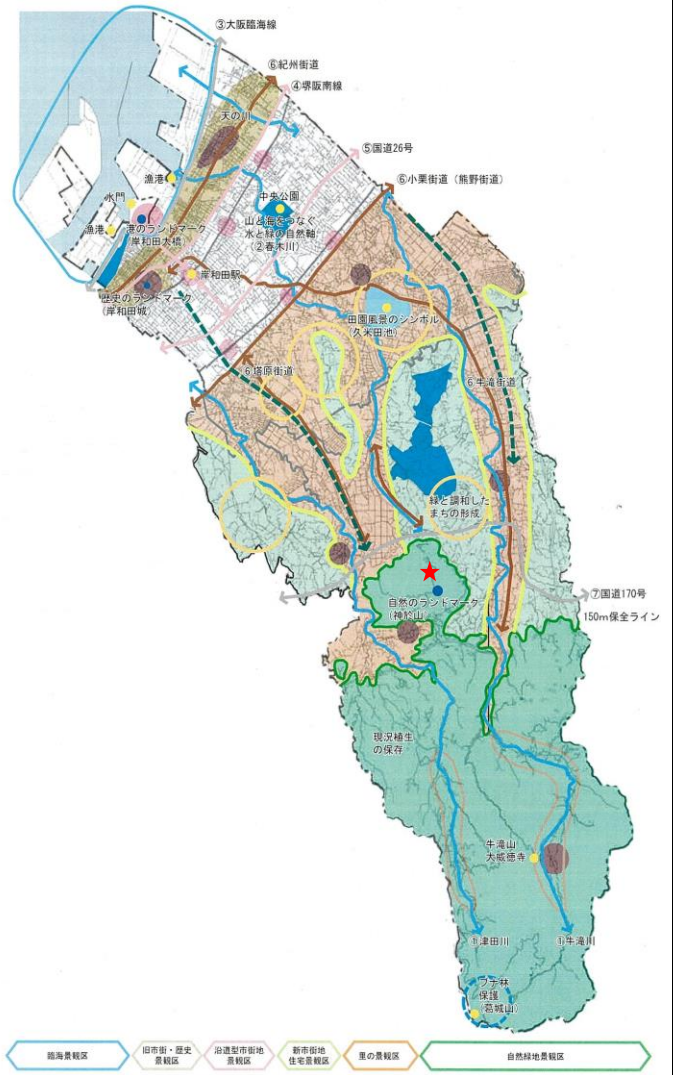
【写真】



【位置図】 東葛城校区



【景観誘导图】



基本景観区域名	自然緑地景観区
景観軸	国道 170 号
景観配慮地区	神於山周辺

■ エピソード No.34 「神於寺の参道」

神於寺に至る参道は坂道となっているため歩くと息が切れる。しかし、桜が咲く頃はその参道を見事に彩り辛い参道も美しい景観となる。そして境内からの眺望は美しくまた来たいと思わせてくれる。(48 歳男性)

■ 講評

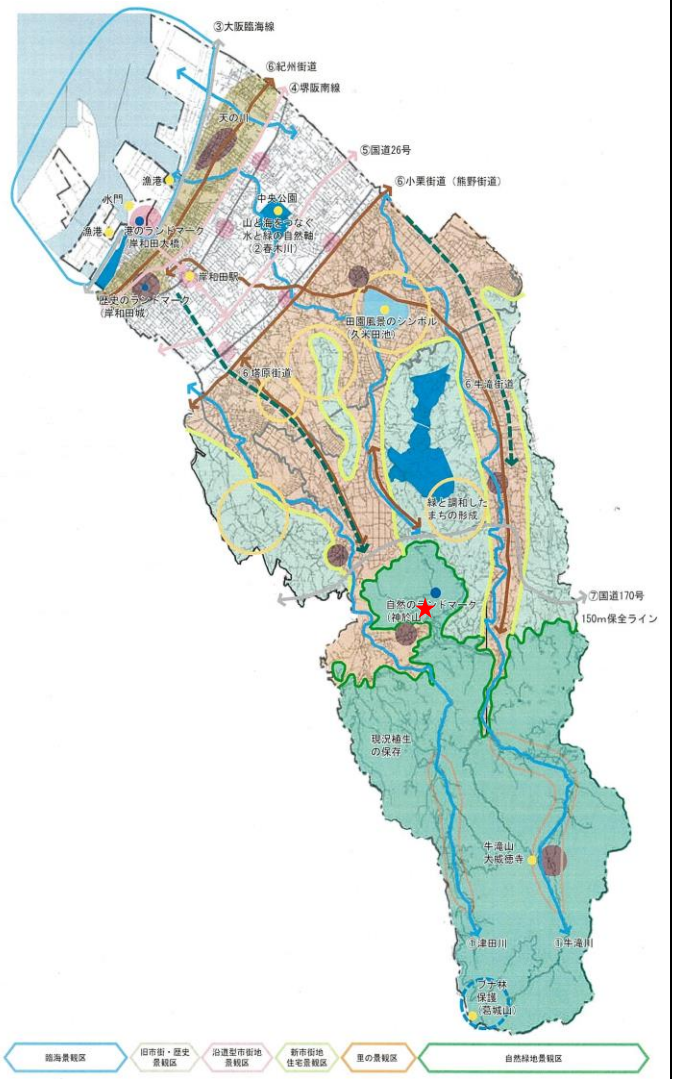
古くから、人々に信仰の対象として崇められている神於山の南麓にある神於寺への参道は、桜をはじめとして四季の趣きを感じる事が出来るまち景観である。参道を登ると町並みや和泉葛城山系を一望できる眺望が広がり、由緒ある寺院とともに訪れた人々の印象に残ることだろう。これからも地域とともに悠久の時を刻みつづける景観を守り継いでもらいたい。

⑨ 白原峠の星祭り(東葛城にて)

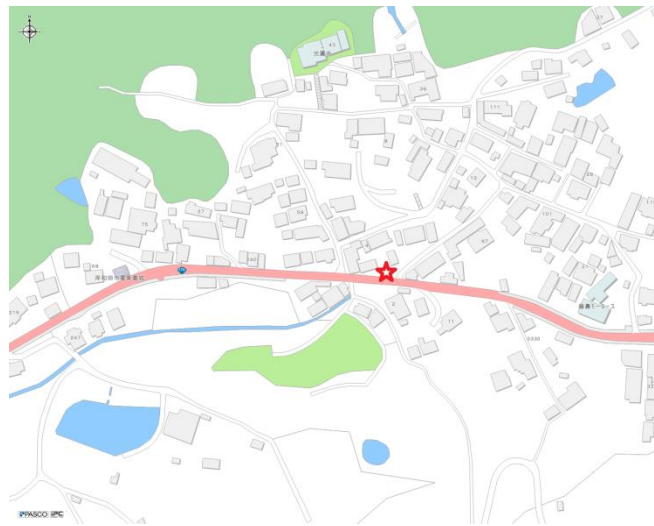
【写真】



【景観誘导图】



【位置図】 東葛城校区



基本景観区域名	自然緑地景観区
景観軸	国道 170 号
景観配慮地区	神於山周辺

■ エピソード No.6 「峠の星祭り」

毎年の星祭り（七夕）には、岸和田市上白原町の峠頂上付近にある個人宅の横にある広場に於いて、同町から通学する生徒並びに来賓として、岸和田警察署長、学校長、毎朝の指導にあたる駐在所員、学童の見守隊の人々を呼び、世界・日本・岸和田市のこどもたちの安全や安心・まちの人々の幸せを願いの糸に託し、星祭りを行います。筆者もそのひとりとして招待を受け参加します。ここに残る景観としては是非推薦します。

○学童の見守隊の息白し

○こどもらの安全いのる星祭り 赤心子（せきしんし）（78 歳男性）

■ 講評

集落を縦断する坂の頂上部にある広場では、地域の人々が七夕の日の色とりどりの短冊に願いを込め笹を飾り付ける。白原峠と名付けられたこの場所には、昔から人々の営みが見られ、往時の賑わいを偲ばせる。季節に応じた取組に地域のつながりが感じられ、いつまでも継承してもらいたいまち景観である。

2. 総評

今回の応募テーマとした「まち景観」には、地域を特徴づける、または、地域の核となる景観要素として魅力が感じられるもの、そこに暮らす人々の営みや賑わいが長きに渡って培われ、歴史の積み重ねが感じられるものなど、多様な 41 件の応募があった。

まちかど審査では多くの市民等が投票に参加し、投票を通じて、岸和田城や久米田池など岸和田のシンボルとして親しまれてきた景観の新たな魅力をはじめ、西福寺や神於寺などの古刹、桜や紅葉など四季折々の趣、更には地域の絆が感じられる祭りや行事などに多くの市民等が触れ、これまで以上に郷土への愛着と岸和田の新たな魅力に気づいてもらえたのではないかと思う。

また、本委員会による現地調査では、写真だけでは伝わらない固有の魅力と、応募者や地域の想いに触れることができ、小さなスポットでも地域景観を特徴づけるものに十分になり得ることを改めて感じた。

今後もプロジェクトを通じ、岸和田市の魅力ある景観に触れる人が増え、岸和田の魅力が広く認知されていくことを期待する。

岸和田 景觀 MODE